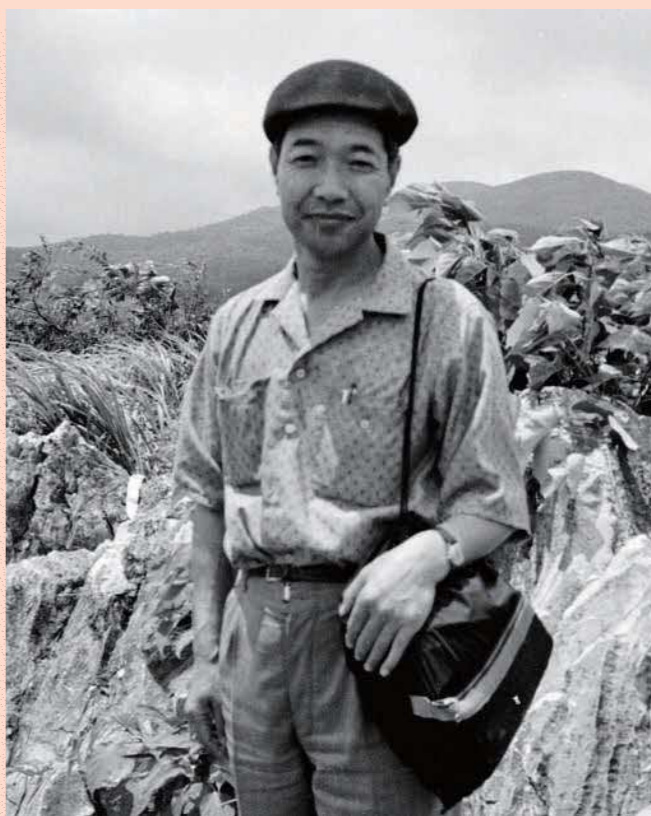


宮本常一



周防大島町
(1907～1981)

宮本常一は周防大島出身の民俗学者。全国を旅して庶民生活の実情を記録し、数多くの著作を記す。農山漁村の振興にも取り組み、特に離島問題には情熱を傾け、島の現況と課題をまとめた『日本の離島』はエッセイストクラブ賞受賞。雑誌『民話』連載の「年寄りたち」を中心に編まれた『忘れられた日本人』は、農山漁村に生きる人びとのライフヒストリーをもとに地域の生活構造を明らかにした作品で、「語り」の文体を採用するなどして高い評価を得ている。周防猿回しや行波神楽といった山口の伝統芸能の復興・継承活動にも協力したほか、最晩年には東和町郷土大学を設立し、故郷の未来を担う人材の育成に努めた。

(高木泰伸)

【主な著作】

- 『宮本常一著作集』51巻 (未来社、昭和43年～平成24年)
- 『私の日本地図』全15巻 (同友館、平成42年～昭和51年)
- 『民具学の提唱』(未来社、昭和54年)